

庄内協同ファームだより

No.144 2013年3月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
http://www.shonaifarm.com



鶴渡川原人形と傘福

近年、食育という言葉をよく耳にします。子供たちが食育を学べる大事なひとつとして学校給食があると思います。現在、核家族が増えてきている為、昔ながらの伝統料理を知らない子供たちが増えてきています。ジャンクフードの味に慣れてきた子供は昔より肥満傾向にあると新聞で読みました。食が変わったことで健康面にも大きく影響があるようです。

以前、青果市場の担当者から聞いた話です。私は家で椎茸栽培をしています。近年、エリンギやぶなしめじなどの消費が伸び、椎茸は消費が減っているそうです。青果担当者がいうには、今の家庭の料理をする人は椎茸を買って

も、どのように調理したら美味しいのかを知らない人が多いとの事でした。椎茸は天ぷらや素焼き、鍋などで煮ても焼いても食べれますが、どう調理したらよいか分からない人は身近に感じてこなかったのでしょうか。もしかしたら、親が椎茸を料理してこなかったのかもしれない。そういう人が多ければ椎茸料理の文化はなくなっていきますし、椎茸の存在意義も薄れていきます。

椎茸に限らず、ほかの野菜にも同じことが言えます。現在の食の欧米化で冬でもトマトやキュウリの消費が多いそうです。しかし、それらは夏野菜です。冬に食べれば体が冷えてしまいますが、大根や白菜などの冬野菜を食べると体が温まります。今ほど医療が発達していなかった時代にその季節の野菜を食べることで健康を保っていました。昔の人は賢かったと思います。そういった知恵がたくさん入った料理を出してくれるのが学校給食だと思います。我が農園でも椎茸、かぼちゃ、ジャガイモ、小松菜等を提供しているのですが、給食のメニューを見ると、季節の野菜が使われ、庄内の伝統料理が作られています。食べる事でも心も体も健康になり、味覚が養われて食育ができるのだと思います。

私が生産者としてできることは安心安全で美味しいものを作り、給食はもちろん、お客様から喜ばれるものを提供することだと思っております。これからも日々努力して農業に励んでいこうと思います。



理事 石垣 忠彦



息の合った餅つきで心をついに



わら細工で干支づくり

心をつなぐ餅つき交流会



猛吹雪の中庄内を出発

宮城県餅つき交流

宮城では津波の影響が大きく、田んぼの復元が少し進んでいるのですが海岸沿いは今だそのまま家の基礎だけが残っていて震災の時から時間が止まっている感じがした。

都市部だけを見ると普段と変わりませんが、復興はまだだと感じました。この震災は忘れてはいけないと思うのですが、忘れようとしているのか市民は関心が薄れているようです。

若い人達は故郷に未練を残しつつも諦めて他の地域に住み始め、お年寄りの人達は離れるのが嫌で一刻も早く家に帰りたという思いが強く家族がバラバラになっている現状があるようです。

前向きな姿勢で進むのは良いと思うが、忘れていけないものもあり、それを踏まえての復興であってほしい。

庄内協同ファームとしても微力ながら支援を続けて行きたいと思います。

今野 裕之



お餅食べて心も体もホカホカ



お味はいかが？



お母さん達のお手伝いに感謝！



皆さんの笑顔に力をもらいました



今日は楽しみに待っていたよーの一言に感激！

福島県餅つき交流

1月26、27日に、福島県の地元生協さんとのご縁で、本宮市内にある浪江町の仮設住宅地域へ餅つき交流会に伺いました。地元生協では、毎日身近な食物の放射線量を測定し、子供達が健康に不安なく成長していけるように独自の健康手帳を作成し、安心を積み重ねる努力をされていました。避難生活が長引くにつれ、男性の多くは地元に戻りたい気持ちが募り、女性は子供の健康を考え安全なところに避難させたいので、家庭内での不和が表には見えない形でたくさん発生しているそうです。

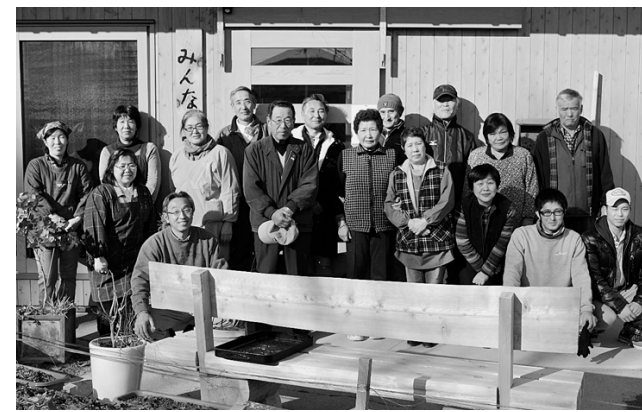
お互いにあたり前の事を望んでいるだけなのに原発事故は、体の悪影響だけでなく、人間同士のつながりを壊してしまう残酷さがあるのだと知りました。

前日の大雪で心配していた天候も交流会当日には、青空が広がり、浪江町の皆さんが朝早くから会場を除雪して待っていてくださいました。庄内から持参したもち米を住民の方々と一緒に餅つきし、つゆやあんこ、きな粉に入れて、たくさんの方に食べていただきました。

普段はあまり外出しない方もこの日は外に出て、みんなとお餅を食べながら久しぶりに笑いあったと喜んでくれました。

暖かくなったらみんなで庄内へ行こう！と盛り上がり、それがささやかですが生きる希望になってくれたらこんなにうれしい事はないと思います。共に前へ歩いていくという気持ちで、これからも絆をつないでいきたいと思います。

橋 紀子



1年ぶりの笑顔の再会

みなさんは、「うれしいひな祭り」という歌はご存知ですかね。あの歌の2番の冒頭で、「お内裏様とお雛様、二人並んですまし顔」という歌詞があります。あれ、間違いだと思ってました？



次に「ひなあられ」ですが、庄内協同ファームの商品名は「三色ぼんちゃん」と言います。原料に関しては、化学合成農薬と化学肥料を一切使用していないうるち米を使用しています。緑色はこちらも化学合成農薬と化学肥料を一切使用していないモロヘイヤを粉末にしたものを使用し、桃色はひしもちと同様のものです。この商品はすぐに食べることができるので、三色の味を楽しんで御賞味ください。

どちらの商品もひな祭りを綺麗に彩ってくれるマストアイテムです。

今年のはひな祭りは、庄内協同ファームの「ひしもち」「三色ぼんちゃん」で色鮮やかに演出してください。どうぞ宜しくお願いします。

ひな祭りで飾る食べ物と言ったら？

これについては皆さんが考えることは一緒だと思いますが、「ひしもち」と「ひなあられ」は外せないでしょう。

今回はこの2つの商品を紹介いたします。まずは「ひしもち」ですが、原料は山形県庄内の品種で、「わのもち」というもち米を使用しています。化学合成農薬をできる限り削減し、化学肥料は一切使用していません。緑色は山形県内で採れた自生のよもぎ、桃色は紅麹色素を使用して、白

緑桃のそれぞれの色を鮮やかに演出しています。ただし、開封して飾っておくと、割れてしまいますので、袋のまま飾るか、ラップでぴたりと包んで飾ることをお勧めします。すぐには食べられませんが、ひな祭りが終わったら、手頃な大きさに切っておしるこにしたり、細かく切って干してからあられにしたりして、美味しく食べられます。

逆のようです。文化というのは時代や地方によって様変わりして、人々に受け入れられているのでしよう。

ひな祭りで飾る食べ物と言ったら？

3月3日はひな祭り

商品紹介



徒然草

小野寺 紀允

「日本海寒鱈まつり」



1月20日。その日の庄内は相変わらず寒いものの、珍しく晴天の日。そして鶴岡の銀座通り商店街には白い息を吐きながら熱々の寒鱈汁をほおぼる人々で溢れ、笑顔が広がっていました。

ちっちゃい頃から、寒い寒いと言いな

らなんとなく手伝っていた寒鱈まつり。昔から両親が立ち上げた、たべものを考える野菜の会」として出店し、庄内協同ファームのつきたてのお餅で会場を盛り上げる一役を任せられていました。そんな美味しく楽しいお祭り。今年からは両親に変わり自分と弟が中心となつて出店することになりました。



とは言えども、日本海寒鱈まつりは1万人を超す大規模イベント。野菜の会だけでも400食は販売する結構大変なイベントです。もちろん人手が必要。近年は知り合いや家族にアルバイトとして手伝ってもらっています。自分たちの代に変わり、どのようなメンバーで挑むか。そこで、自身も属する庄内協同ファームの青年部でなにか地元イベ

ントに携わりたいとの意見もあったので、青年部にお願ひし「ヨロブ出店することになりました。」

当日、自分の段取りが悪く、皆さんにも迷惑をかけたが、やはり近い年代の仲間！ほぼ打ち合わせなくてもみんなの息ひたり！メニューとしてはあんこもち、きなこもち、お雑煮風の肉汁もち。商品としては自分たちが栽培したお米で作った白丸もち、あられやおこし。晴天にも恵まれ、メンバーの笑顔の相乗効果もあり飛ぶように売れました。そして寒鱈まつりのプチイベント「餅つき実演&きなこもちの振る舞い」。青年部のメンバーと一緒に笑顔も振る舞い、今年も長蛇の列となりました。

そして夜は、とある焼肉屋で寒鱈まつりのお疲れ様会&青年部の新年会。参加できなかったメンバーもいましたが、これまたもちろん大盛り上がり！寒鱈まつりの話や、個々のプライベートの話、もちろん行き着くのはみんなの本職の農業の話。酒を交わしながらどっぶり交流が図れました。

以前 後継者世代と

父から娘へ

我が子がバスケットボールのスポ少に入団して1年とちょっとが経った。同じ町内会の子がやっていて誘われたから、入団した動機はそれだけ。元々目を見張るような運動神経がある訳でもなく、同学年の子と比べても一回り小さい体格、そもそもバスケット自体、練習を見学にいって初めて見た。

入団したチームは県内で常に上位を争う強豪チーム。小学生とは思えない厳しい練習に、キャプテンを中心にした素晴らしい団結力、初めて練習を見学に行った時、鳥肌がたったのを憶えている。このチームでうちの子がやっつけられるのか？途中で嫌になって辞めたくなるのでは？そんなことばかり考えていた。小さい時から「勝つとか負けるとか嫌い」と口にし、勝負事にはどこか興味がない、そんな子がバスケット当然親としては不安の方が大きかった。

練習日は週4回、週末の練習は練習試合が大半しめる。選手も大変だがサポートする親がこれまた大変！話には聞いていたがこれほどとは（私よりも母親メインだが）…。家に帰れば学校の宿題とスポ少の両立に追われる娘とその尻を叩く母親、今ではすっかりおなじみの光景となった。そんな生活を続けていても、自らの意志でやると決めたからなのか、娘の口から「スポ少辞めたい」という言葉は今のところ聞いた事はない。寧ろ以前より自信に満ちた顔になった気がする。

勝負事に興味がなく、どこか一生懸命にならず手を抜いているイメージさえあった娘が、今では「悔しい！負けたくない！」という言葉で口にし、試合に負ければ号泣する。これまで見たことがない娘を見て、こっちまで胸が熱くなる。

悔しくて泣いたり、喜んだり、一生懸命頑張るからこそ芽生える感情にバスケットを通じて早くから触れることができ本当に嬉しく思う。

頑張った先にあるのが必ずしも良い結果とは限らないが、結果がすべてではないし大切なことはたくさんあると思う。そのことを父親として伝えながら共に成長していきたいと思う。

なる青年部のメンバーの中で、共通の「何かが見えづらい」という話になりました。でも今回、青年部として初めての地元イベントへ参加が出来たことで、まず一緒に何かを楽しみながら自分たちにとって第一歩だと感じました。そして、その積み重ねが大きく「太いモノ」になるだろう。

なかなか忙しいメンバーの集まりなので、こういった機会は少ないのかもしれないけど、またみんなで遊べたらな〜って思いながら、芽生える春を待ちわびています。

あとがき

今年の冬は雪が結構降ってはいいるものの、溶けるのも早く積雪は例年より少なくて過ごしやすい冬となりました。

3月3日、桃の節句にはお雛様が飾られますが、こ庄内北部ではお雛様の他に傘福、鶴渡川原人形を飾る風習があります。

傘福の発祥は定かではありませんが江戸時代、北前船で京都との交流があったことから伝えられたと考えられます。和傘に手作りの小さなちりめん細工をいくつも飾り、とても華やかな傘となっています。「福岡のさげもん」「伊豆稲取の雛つるし飾り」「酒田の傘福」が日本三大つるし飾りと呼ばれています。「鶴渡川原人形」は素朴で温かい土人形で京都の伏見人形の流れをくみ、地名から「鶴渡川原人形」の名が付けられました。人形の型はお雛様、恵比須様、大黒様などの吉祥人形のほか金太郎、桃太郎など昔話に登場する人形、風俗人形にはバイオリンを持つ少女やバレリーナなどモダンなものも数多くあります。その数大小合わせて2000以上の種類があるそうです。

子供が健やかに育つことを思い、また様々な願いを形にして飾られます。

庄内にお越しになり是非お雛様と伴に「傘福」「鶴渡川原人形」を見て頂きたいと思ひます。

(銀)

